

資料 4

# 第 6 期県民会議における普及啓発活動 について

～新型コロナウイルス感染症対策下での普及啓発  
活動について～

Kanagawa Prefectural Government

## 県民に向けたバリアフリーの街づくりに係 る普及啓発活動（現状）

### ■ これまでの取組

県民会議が取りまとめた提案書に基づき、

- ▶ 構成団体による提案内容の実践
- ▶ 県民・事業者・行政の協働によるイベントとして  
「バリアフリーフェスタかながわ」の開催
- ▶ 先進的な取組事例の収集及び情報提供

などを実施することで、バリアフリーの街づくりに関する  
理解促進が図られてきた。

# 県民に向けたバリアフリーの街づくりに係る普及啓発活動

## ■ 令和2・3年度の普及啓発活動について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、集客型イベントである「バリアフリーフェスタかながわ」は、令和2年度に続き3年度も中止となった。

更に、優れた取組について知事が表彰する「バリアフリー街づくり賞」も、同様に2年続けて中止となっている。(県事業)

## ■ 課題

コロナ禍にあっても、これまで進めてきたバリアフリーの街づくりの推進に向けた取組が後退することのないよう、普及啓発活動を継続して行っていく必要がある。

## 第6期普及啓発事業（案）

<第19回会議(前回)で提案した事項>

### ■ 「県民会議からの提案書」の概要版リーフレットの作成

⇒ 資料3において説明

(1)県ホームページの充実、SNSを活用した活動紹介等

<今回提案する新たな取組み>

(2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討

(3)地域や学校におけるバリアフリー教育充実に向けた検討

## (1)県ホームページの充実、SNSを活用した活動紹介等①（令和3年度の取組）

### ■ 県ホームページを活用した広報活動の強化

#### ▶ 新たに掲載するもの

#### ・ 県民会議構成団体の紹介(団体の概要、取組)ページ

…紹介と合せ、問合せや依頼等につながりやすいようにする（後日、入力様式をお渡しするのでご回答願います。）

#### ・ その他、県のまちづくり表彰やモニタリング実施一覧、提案書並びに事例集等も掲載して充実（新規・継続）

#### ▶ レイアウトの見直し

⇒ 「普及啓発」と「条例に基づく整備」を区分して情報が探しやすいよう改善を行う

## (1)県ホームページの充実、SNSを活用した活動紹介等②（今後の課題）

### ■ 第19回会議時のSNS活用に関する想定

県民会議でTwitterもしくはFacebookを開設し、提案書に基づいた構成団体の活動紹介や、フェスタの代替となるような、SNS上での企画等

### ■ 懸念点

・ ホームページやSNSは、情報を積極的に取りに来る方に対して非常に有効だが、それ以外の方に対しては閲覧してもらうための工夫が必要

・ コンテンツ充実（優良事例の選別、写真・動画作成等）、掲載・投稿ルール策定等に相当の労力・期間がかかることが想定

⇒ 今後の課題として引き続き検討していくこととしたい。

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討①

### ■バリアフリーフェスタ

#### <目的>

- ・県民会議からの提案書に基づく取組内容の周知
- ・取組内容について、県民からの意見を集約
- ・県民会議の活動を広く周知

⇒ 県民・事業者・行政の協働によるイベントとして、平成25年度から開催。着実にバリアフリーの取組への理解と啓発を進められてきた。

#### <成果>

○コーナー体験 延参加者数 約11,500人(令和元年度まで)

区 分	高まった	やや高まった
バリアフリーの取組への興味・関心	147 (61.5%)	71 (29.7%)

※バリアフリーフェスタ2019・来場者アンケート 有効回答数239

Kanagawa Prefectural Government

9割以上

6

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討②

### ■バリアフリーフェスタの実施状況 ※令和2年度及び3年度は中止

日時	実施場所	出展数	参加者数
H25.11.17(日)	アリオ橋本 (相模原市緑区)	14団体 13コーナー	コーナー体験 約1,800人 スタンプラリー参加者 約380人
H26.11.8(日)		18団体 15コーナー	コーナー体験 約2,150人 スタンプラリー参加者 約300人
H27.11.8(日)		13団体 11コーナー	コーナー体験 2,054人 スタンプラリー参加者 322人
H28.10.23(日)		16団体 13コーナー	コーナー体験 1,830人 スタンプラリー参加者 247人
H29.10.8(日)	慶應義塾大学 (横浜市港北区)	15団体 12コーナー	コーナー体験 1,014人 スタンプラリー参加者 158人
H30.11.4(日)	新都市ホール及び センタープラザ (そごう横浜店9階)	16団体 12コーナー	コーナー体験 1,201人 スタンプラリー参加者 221人
R1.11.2(日)		20団体 16コーナー	コーナー体験 1,449人 スタンプラリー参加者 262人

Kanagawa Prefectural Government

7

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討③

### ■これまでの取組の良かった点

- ▶ 会議構成団体を中心とした、様々な企業や当事者団体の参加のもと、工夫された展示やブース出展が可能。
- ▶ 「バリアフリーの街づくり」の取組みに関心を持つ方が探しやすい。

### ■懸念点

- ▶ 年1回・1地区での開催に留まるため、日程の都合が付かなかつたり、遠方であることを理由に、参加を見送る者がいることが想定される。
- ▶ 会場選定によっては「バリアフリーの街づくり」について、関心が薄い者に対するアプローチが難しい。

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討④

### <提案>

県民参加を容易にするとともに、多様な人材層に向けた普及啓発を強化する観点から、試行的に、市町村等が行うイベントに複数回参加するなど、地域密着型・分散型の事業展開を図ってはどうか。

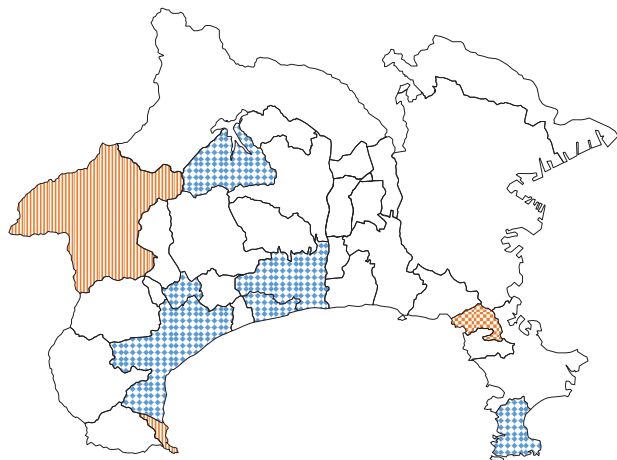
### ○考えられる連携の例

- ・市町村のお祭り、大学・商店街等におけるイベントへの参加  
(比較的関心の薄い層に対するアプローチ)
- ・市町村社協や福祉系イベントへの参加  
(バリアフリーを深く知りたい方に対するアプローチ)
- ・公民館やショッピングセンター等でのパネル展示

※今回提案の事業と、従前までのフェスタを組み合わせ、例えば1年おきに実施することなども考えられる。

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討⑤

### ■ 県内市町村への事前アンケート結果（令和3年8月5日現在）



ブース出展 (2町)	山北町(10/11月) 真鶴町(7月)
イベント参加 (1市)	逗子市(12月)
パネル展示 (3市4町1村)	平塚市・小田原市・ 三浦市・大磯町・ 大井町・山北町・ 真鶴町・清川村

※ コロナ禍のため回答保留とした市町村があったこと等を考慮し、年度末に改めて照会・確認等する予定。  
併せて、皆様にも協働可能なイベント等の確認を検討しているため、その際は御協力をお願いしたい。

## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討⑥

### ■ 令和4年度事業計画

ブース出展、イベント参加：時期・区域を考慮し、概ね5回  
パネル展示：随時

⇒事業効果の検証を行ったうえ、令和5年度以降の実施方法  
規模・回数等を検討することとしたい。

### ■ 想定スケジュール

時期	会議	内容
令和4年3月 (予定)	第21回 県民会議	連携するイベント、方向性等について議論 展示パネルに記載する事項の募集
6月	実行委員会	出展内容、のぼり、展示パネルの作成等
令和5年3月 (予定)	第23回 県民会議	事業効果の検証、課題の整理 令和5年度以降の実施方法について議論



## (2)市町村等と連携した普及啓発の実施に向けた検討⑦

〈ご議論いただきたいこと〉

- 従前までのバリアフリーフェスタに代え、地域密着型・分散型の事業展開とすること(若しくは交互に実施)について。
- バリアフリーフェスタを継続するとした場合は、関心が薄い層の参加を促すために、どのような工夫をするべきか。
- 地域密着型・分散型の事業展開を図ることとした場合に、参加するイベント等の種類や啓発の方法、留意すべき事項等について。(方向性の議論)

## (3)地域や学校におけるバリアフリー教育充実にに向けた検討①

- バリアフリー教育に係る各種団体の取組例(取組事例集より)
  - 『視覚障害者の理解・啓発事業』  
(NPO法人 神奈川県視覚障害者福祉協会)  
⇒総合学習・ボランティア育成への協力/会社・自治会への啓蒙
  - 『障害者理解出前講座』  
(NPO法人 神奈川県自立生活支援センター)  
⇒公共交通機関など障害者に接する機会が多い企業で講義・実演
  - 『交通バリアフリー教育』  
(一社)神奈川県タクシー協会/ (一社) 神奈川県バス協会)  
⇒小学校を中心に高齢者疑似体験や介助体験等を実施 など

## (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実にに向けた検討②

### ■ 各種会議における委員意見（抜粋）

- ・ バリアフリー教育の充実は、本当に大事なことだと思います。今、神奈川県のおいじめの数値も非常に上がっていますし、多様性への理解やバリアフリーの必要性を、今、本当に子供たちに伝えたい一番大切なことだと思います。【第18回県民会議】
- ・ 現在はあまり学校教育の中でそういったもの（福祉教育）が行われてきていない（略）すべての障害のある人たちに対する理解を進めましょうっていう、基礎的な教育をやっぱりしていかないといけない【令和2年度第2回条例見直し検討会議】

## (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実にに向けた検討②

### ■ 提案書（見直し後）における位置づけ

普及啓発、県民運動として重点化を図るもの

#### (1)バリアフリー教育の充実

##### ア 地域や学校におけるバリアフリー教育の充実

学校等の教育現場においては、障がい者や高齢者との交流なども含め、人権の視点を踏まえ、自然に「心のバリアフリー」を理解できるよう取組を充実する。

教育現場だけでなく、企業、地域においても自発的にバリアフリー教育の実践を行う。

- (参考)改正バリアフリー法は、市町村事業として、地域や学校でのバリアフリー教育をメニュー事業として盛り込み



### (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実にに向けた検討④

#### <現状>

- ・ これまで提案書に基づき、各団体における様々な実践や、バリアフリーフェスタ等により、「心のバリアフリー」を含めて、バリアフリーに関する理解促進が図られてきた。
- ・ 一方で、委員から身近な地域における理解促進や、特に教育現場でのバリアフリー教育が不足している旨の指摘、市町村との連携等について御意見いただいているところ。

県民会議の事業として、「バリアフリー教育の充実」に関する新たな取組を開始し、関連部局(教育他)とも連携しながらより一層の理解促進を図っていくこととしてはどうか。

### (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実にに向けた検討⑤ <新たな取組の検討>

#### ■ 事業対象者の設定

誰もが暮らしやすい街づくりには、目指す社会（共生社会・ユニバーサル社会）に対するイメージの共有が重要

まずは、地域福祉の将来の担い手である小中学生を対象の中心として、自身の周りにおける身近なバリアの存在に対する「気づき」や、それを「自分ごと」として捉え、考える機会を提供する。

(将来的には) 大学生や社会人に向けた事業展開について検討していく

### (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実に向けた検討⑥ <新たな取組の検討>

#### ■ 想定している取組

##### ▶ 副教材（啓発資料）の作成・配布

「街も、私たちもバリアフリーになろうよ」（2012年県作成）をベースに、知的・精神障害や外国人、ユニバーサルデザインに関する記述などを充実させた上で配布

##### ▶ 出張講座(イメージ)

事業者団体と当事者団体でチームを組んだうえ、出張講座を希望する小中学校や図書館等に出向き、UDや心のバリアフリーについて講義・ワークの実施及び各団体の取組の紹介

### (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実に向けた検討⑦ <新たな取組の検討>

#### ■ 事務局（県）の対応として想定しているもの

##### ▶ 副教材（啓発資料）の印刷、配布

##### ▶ 出張講座先の開拓、団体紹介・仲介、ニーズの把握

##### ▶ マニュアル・手引きの作成

##### ▶ 必要な器材等の貸し出し

#### ■ 今後の進め方について

対象学年の設定や副教材の作成、出張講座の実施方法、講義内容等を検討するための部会設置等について別途相談させていただきたい。

### (3)地域や学校におけるバリアフリー教育 充実に向けた検討⑧ <新たな取組の検討>

<ご議論いただきたいこと>

- 提案に基づく各構成団体の取組に加え、県民会議としてもさらに具体的にバリアフリー教育に取り組むことについての可否
- 教材の作成や今後の進め方といった事務局案に関するご意見・アイデア
- 実施に当たり留意すべき事項
- 事務局に求める役割